

## 2002 年度地域保健・老人保健事業報告による 全国特定疾患医療受給者の実態把握

太田 晶子、仁科 基子、柴崎 智美、石島 英樹、泉田 美知子、  
永井 正規（埼玉医科大学・公衆衛生学）

### 研究要旨

地域保健・老人保健事業報告を利用し、わが国における最新の疾患別・性別・年齢階級別・都道府県別の受給者数を明らかにした。受給者数は、特に高齢者で増加がみられた。受給者数が最大となる年齢が、過去の受給者調査に比べ、男性で高齢になっていた。特に、1998 年度以降受給対象となった 6 疾患（神経線維腫症、亜急性硬化性全脳炎、バッド・キアリ症候群、特発性慢性肺血栓塞栓症、ファブリー病、副腎白質ジストロフィー）の受給者の性・年齢の特徴を明らかにすることができた。今後も受給者の疫学的特徴を継続的に把握していく必要があり、性・年齢など基本的特徴の把握に地域保健・老人保健事業報告の受給者情報は有用である。

### はじめに

厚生労働省の特定疾患の疫学に関する研究班は、過去 4 回（1984 年度、1988 年度、1992 年度、1997 年度）、特定疾患医療受給者を対象に全国悉皆調査（以下、受給者全国調査と略す）を行い、わが国の受給者の性、年齢、受療状況（給付開始年度、医療保険の種類、受診医療機関の種類）などを報告してきた。2001 年度からは、医療費公費負担受給申請時に提出される臨床個人調査票が電子入力されている。この情報の利用により、受給者の記述疫学的特徴、受療状況などの把握が容易になることが期待されている。

一方、厚生労働省は、1997 年度から毎年、地域保健・老人保健事業報告で、性別、年齢階級別、疾患別の特定疾患医療受給者数を保健所ごとに収集し、性別、都道府県別、疾患別の受給者数を報告している。地域保健・老人保健事業報告から得られた 1997 年度の性別、疾患別、都道府県別受給者数が 1997 年度受給者全国調査のそれとほぼ同様の特徴を示したことから、地域保健・老人保健事業報告の受給者情報は受給者の

基本的特性を示す有用な資料と考えられ<sup>1)</sup>、昨年は、2000 年度の地域保健・老人保健事業報告の解析結果を示した。本研究は、2002 年度地域保健・老人保健事業報告を利用し、最新のわが国における疾患別の受給者数、性、年齢の特徴、都道府県格差などを明らかにすることを目的とする。

### 方法

2002 年度地域保健・老人保健事業報告で収集された、疾患別、性別、年齢階級別、保健所別の受給者数の情報（年齢階級別、保健所別の受給者数の情報は報告書に未収録）を用い、疾患別・性別・年齢階級別・都道府県別の受給者数の集計を行った。2002 年度の受給対象疾患は 45 疾患である。受給者数の対人口比の算出には、2002 年 10 月 1 日現在の推計人口を用いた。都道府県別受給者数の比較は、都道府県別標準化受給者数比（実際の受給者数 / { 全国の年齢階級別人口あたり受給者割合 × 当該都道府県の年齢階級別人口 } の全年齢階級についての総和）を用いた。

## 結果

### 1. 全疾患総計の特徴

報告された 2002 年度の受給者数は、527,047 人（男 213,198 人、女 313,849 人）、性比（男／女）0.68 である。1997 年度受給者全国調査結果と比較すると、受給者数は 5 年間で 127,328 人（1.32 倍）増加し、性比は 0.66 から 0.68 と高くなっている。性・年齢階級別にみると、男女ともに 50 歳代以上の受給者が多く、人口 10 万対で女は 60 歳代、男は 70 歳以上の受給者が最も多い（表 1-1、表 1-2）。過去 4 回の受給者全国調査と比較すると、受給者数が最大となる年齢は男では高齢化している。男女とも 20 歳未満を除いて、どの年齢層でも年々受給者数が増加しており、特に高齢者で増加が目立つ（図 1）。

都道府県別には、受給者数が最も多いのは、東京都の 44,985 人、最も少ないのが山梨県の 2,408 人であった（表 2）。人口 10 万対受給者数は全国で 413.6 であるが、滋賀県、北海道、岡山県では高く、520 を超えていた。一方、山梨県、愛知県、岐阜県では低く 330 未満であった（表 3）。標準化受給者数比は、北海道、岡山県などで高く、山梨県、岐阜県など低かった（表 4）。1997 年度と比べて、全ての都道府県で受給者数が増加しており、2002 年度/1997 年度受給者数比が最も大きいのは岐阜県で 1.53 であり、最も小さいのは山梨県で 1.13 であった。受給者数比が 1.4 以上であるのは 10 府県であった（表 2）。

### 2. 疾患別の特徴

疾患別性別受給者数を表 5 に、疾患別性別年齢別受給者数を表 6 に示した。

受給者数が最も多い疾患は、潰瘍性大腸炎 76,915 人、ついで、パーキンソン病 65,635 人、全身性エリテマトーデス 52,343 人、特発性血小板減少性紫斑病 31,329 人、強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎 31,295 人であり、この 5 疾患で全受給者の約 5 割を占めていた。性比は、受給対象の 45 疾患のうち 27 疾患で 1 より小さく、女性に多い疾患が多い。2002/1997 年度受給者数比は、原発性肺高血圧症で 6.59 と最も大きく、プリ

オン病 1.96、広範脊柱管狭窄症 1.79、特発性大腿骨頭壊死 1.68、混合性結合組織病 1.64 など、給付対象となった年次の新しい疾患で大きい。

疾患別に、受給者の性、年齢の特徴を人口あたりでみると、多くの疾患で受給者は 40 歳代から 60 歳代に多いが、再生不良性貧血や特発性血小板減少性紫斑病などは、高齢者だけでなく若年者にも多く分布している。多発性硬化症、全身性エリテマトーデス、大動脈炎症候群、混合性結合組織病、潰瘍性大腸炎、クローン病などが、30 歳代から 50 歳代で多く分布している。ウィルス動脈輪閉塞症、表皮水疱症、原発性免疫不全症候群、神経線維腫症、亜急性硬化性全脳炎などは高齢者より若年者の方に多く分布している。

性比（男/女）の推移（1984、1988、1992、1997、2000 年度）をみると、性比が 1 未満の疾患の多くで性比が上昇しており、性比が 1 以上の疾患の多くで性比が低下していた（図 2）。例えば、性比が 1 未満の疾患では、全身性エリテマトーデス、大動脈炎症候群、悪性関節リウマチ、混合性結合組織病などでは性比が上昇し、性比が 1 以上の疾患では、ピュルガー病、シャイ・ドレガー症候群、広範脊柱管狭窄症、特発性大腿骨頭壊死症などで性比が低下していた。ただし、性比が 1 以上の疾患でも、クローン病、後縦靭帯骨化症、特発性拡張型心筋症などでは性比が上昇していた。

1997 年度受給者全国調査以降、調査対象となった 6 疾患の受給者数は、神経線維腫症 1,808 人、亜急性硬化性全脳炎 111 人、バッド・キアリ症候群 188 人、特発性慢性肺血栓塞栓症 445 人、ライソゾーム病（ファブリー病含む）257 人、副腎白質ジストロフィー 129 人であり、性比はそれぞれ、0.81、1.27、1.04、0.43、1.89、8.21 であった。これら 6 疾患の性・年齢別受給者数を図 3～8 に示した。神経線維腫症は男女とも 10 歳代～50 歳代に多く、女は 30 歳代に、男は 20 歳代に最も多かった。亜急性硬化性全脳炎は、男女とも 10 歳代に最も多く、ほとんどが 40 歳未満であった。バッド・キアリ症候群は、男女とも 10 歳代から増加し、男は 60 歳代以降で多く、女は 50 歳代で最も多かった。特発性慢性肺血栓塞栓

症は、女は 40 歳から増加し、60 歳代に最も多く、男は 30 歳代からわずかに増加していた。ライソゾーム病(ファブリー病含む)は、男女とも 10 歳代から増加し、20 歳～30 歳代で多く、男は 30 歳代で最も多く、その後減少していた。副腎白質ジストロフィーは、男は 10 歳代～50 歳代に多く、30 歳代で最も多く、女は 30 歳以上で受給者が僅かに認められた。

#### まとめ

最新の疾患別受給者数を性・年齢階級別に明らかにした。受給者数は、特に高齢者で増加がみられた。受給者数が最大となる年齢が、過去の受給者調査に比べ、男性で高齢になっていた。1998 年度以降新たに受給対象となった 6 疾患の性・年齢分布の特徴を明らかにすることができた。

今後も受給者の疫学的特徴を継続的に把握していく必要があり、性・年齢など基本的特徴の把握に地域保健・老人保健事業報告の受給者情報は有用である。

#### 文献

1) 太田晶子, 仁科基子, 柴崎智美, 他: 地域保健事業報告における特定疾患医療受給者情報の利用. 厚生の指標. 2003; 50: 17-23.

健康危険情報  
なし

研究発表  
学会発表

1. 石島英樹, 仁科基子, 太田晶子, 泉田美知子, 柴崎智美, 永井正規: 全身性エリテマトーデスと悪性関節リウマチの性比の特徴について, 日本公衛誌, 51(10), 479, 2004

知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)  
特許取得           なし  
実用新案登録       なし  
その他               なし

表1-1. 2002年度受給者数、受給者数性比、1997年度受給者数  
受給者数比(2002年度/2000年度),年齢階級・性別

年齢	男	女	総数	性比 (男/女)	1997年度 受給者数	受給者数比 (2002/1997)
0-9歳	2,173	1,891	4,064	1.15	5,137	0.79
10-19	5,779	6,897	12,676	0.84	12,875	0.98
20-29	18,510	23,019	41,529	0.80	37,688	1.10
30-39	26,783	36,280	63,063	0.74	45,460	1.39
40-49	26,729	39,421	66,150	0.68	61,818	1.07
50-59	38,911	63,373	102,284	0.61	77,939	1.31
60-69	47,542	70,496	118,038	0.67	92,860	1.27
70-	46,771	72,472	119,243	0.65	65,942	1.81
合計	213,198	313,849	527,047	0.68	399,719	1.32

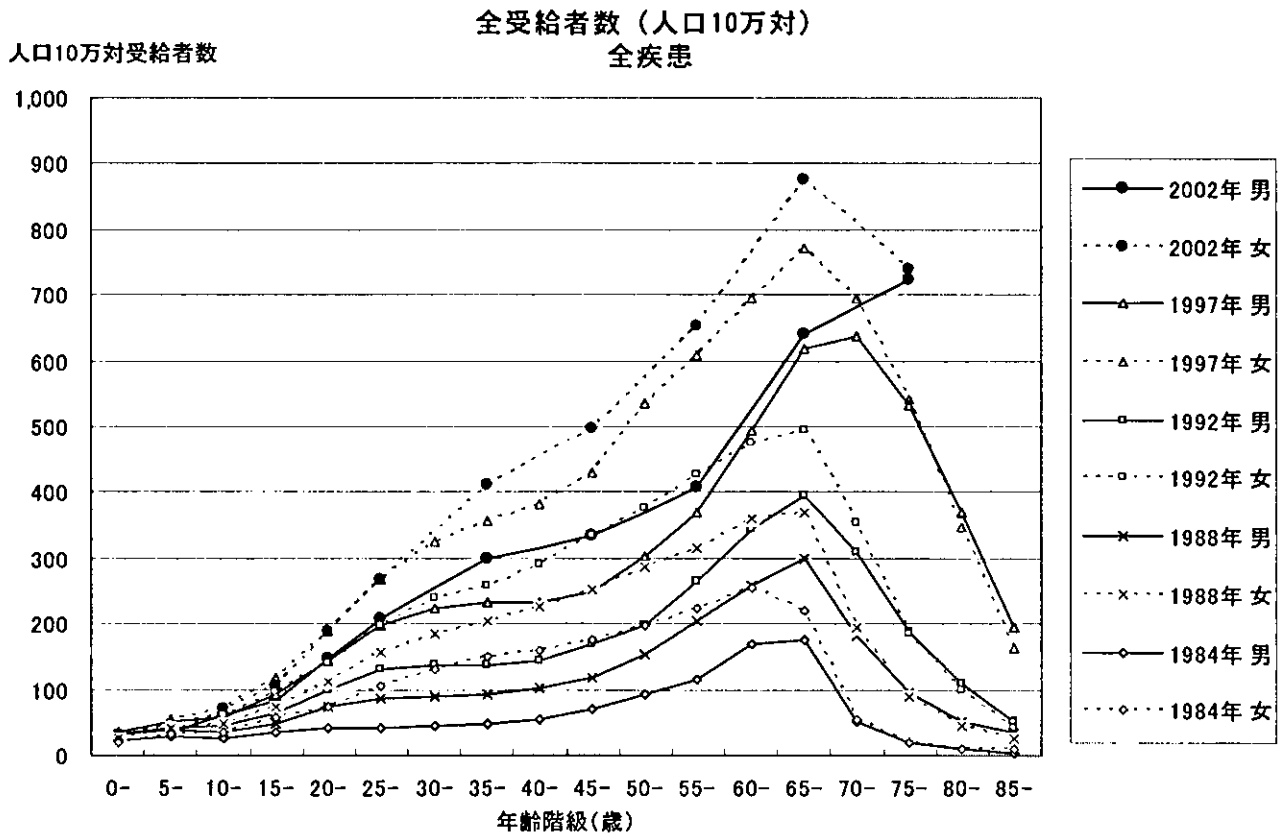
1997年度受給者数は1997年度受給者全国調査から得た。

表1-2. 2002年度人口10万対受給者数、受給者数性比,年齢階級・性別

年齢	男	女	総数	性比 (男/女)	1997年度 受給者数	受給者数比 (2002/1997)
0-9歳	35.76	32.71	34.27	1.09	42.14	0.81
10-19	95.10	119.30	106.90	0.80	84.81	1.26
20-29	208.26	269.07	238.08	0.77	197.52	1.21
30-39	299.02	412.37	355.20	0.73	282.78	1.26
40-49	333.82	496.49	414.79	0.67	325.24	1.28
50-59	407.45	652.32	530.93	0.62	453.85	1.17
60-69	640.47	875.51	762.72	0.73	644.32	1.18
70-	723.56	740.27	733.62	0.98	505.38	1.45
合計	342.48	481.49	413.58	0.71	316.81	1.31

分母に用いた人口は2002年10月1日現在の推計人口(総人口)。

図1 性・年齢階級別人口10万対受給者数（1984年度、1988年度、1992年度、1997年度、2002年度）



1984年、1988年、1992年、1997年度の受給者数は、受給者全国調査によるものであり、受給者全国調査では、5歳階級、2002年度地域保健・老人保健事業報告では10歳階級別に受給者数を集計している。

表2 2002年度受給者数、受給者数性比、1997年度受給者数、  
受給者数比(2002年度/1997年度):都道府県・性別

都道府県	男	女	総数	性比 (男/女)	1997年度 受給者数	受給者数比 (2002/1997)
北海道	12,727	19,769	32,496	0.68	23,371	1.39
青森県	2,240	3,345	5,585	0.64	4,099	1.36
岩手県	2,447	3,713	6,160	0.67	4,441	1.39
宮城県	4,159	5,897	10,056	0.66	6,936	1.45
秋田県	2,007	3,058	5,065	0.71	3,797	1.33
山形県	1,924	2,825	4,749	0.66	3,537	1.34
福島県	3,899	5,298	9,197	0.68	7,065	1.30
茨城県	3,884	6,072	9,956	0.74	7,224	1.38
栃木県	3,331	4,838	8,169	0.64	6,996	1.17
群馬県	3,574	4,874	8,448	0.69	7,219	1.17
埼玉県	9,386	14,510	23,896	0.73	18,314	1.30
千葉県	9,039	13,698	22,737	0.65	17,263	1.32
東京都	17,684	27,301	44,985	0.66	34,630	1.30
神奈川県	14,031	21,372	35,403	0.65	26,961	1.31
新潟県	4,638	6,644	11,282	0.66	9,639	1.17
富山県	2,071	3,080	5,151	0.70	4,488	1.15
石川県	2,217	3,258	5,475	0.67	4,215	1.30
福井県	1,316	1,857	3,173	0.68	2,316	1.37
山梨県	989	1,419	2,408	0.71	2,127	1.13
長野県	3,403	5,071	8,474	0.70	6,560	1.29
岐阜県	2,701	4,236	6,937	0.67	4,528	1.53
静岡県	6,241	9,033	15,274	0.64	12,190	1.25
愛知県	9,441	13,592	23,033	0.69	17,348	1.33
三重県	3,325	4,683	8,008	0.69	6,589	1.22
滋賀県	2,484	3,206	5,690	0.71	3,921	1.45
京都府	5,322	7,190	12,512	0.77	8,678	1.44
大阪府	15,248	22,454	37,702	0.74	29,835	1.26
兵庫県	9,511	14,111	23,622	0.68	16,236	1.45
奈良県	2,525	3,579	6,104	0.67	4,055	1.51
和歌山県	2,008	2,873	4,881	0.71	3,254	1.50
鳥取県	1,101	1,611	2,712	0.70	2,280	1.19
島根県	1,509	2,298	3,807	0.68	3,067	1.24
岡山県	4,264	5,962	10,226	0.66	7,971	1.28
広島県	5,038	6,796	11,834	0.72	8,395	1.41
山口県	2,707	4,089	6,796	0.74	5,426	1.25
徳島県	1,829	2,562	4,391	0.66	3,190	1.38
香川県	1,833	2,601	4,434	0.71	3,630	1.22
愛媛県	2,737	3,911	6,648	0.70	5,328	1.25
高知県	1,669	2,463	4,132	0.70	3,538	1.17
福岡県	8,877	12,426	21,303	0.68	15,466	1.38
佐賀県	1,520	2,208	3,728	0.71	2,614	1.43
長崎県	3,041	4,733	7,774	0.69	6,067	1.28
熊本県	3,686	5,144	8,830	0.64	6,719	1.31
大分県	2,051	3,096	5,147	0.72	4,436	1.16
宮崎県	2,130	3,149	5,279	0.66	4,101	1.29
鹿児島県	3,561	5,079	8,640	0.68	6,326	1.37
沖縄県	1,873	2,865	4,738	0.70	3,333	1.42
全国	213,198	313,849	527,047	0.68	399,719	1.32

表3 2002年度人口10万対受給者数、受給者数性：都道府県・性別

都道府県	男	女	総数	性比 (男/女)
北海道	470.15	667.42	573.12	0.71
青森県	320.92	434.42	380.19	0.70
岩手県	361.98	507.24	437.81	0.74
宮城県	359.15	486.15	424.12	0.71
秋田県	360.32	494.02	430.70	0.74
山形県	322.82	442.10	384.53	0.73
福島県	377.44	487.85	433.82	0.73
茨城県	261.02	404.26	332.98	0.77
栃木県	333.77	478.06	406.42	0.65
群馬県	356.69	472.74	415.75	0.70
埼玉県	266.04	417.79	341.32	0.75
千葉県	300.70	458.28	379.33	0.64
東京都	290.86	444.79	368.16	0.66
神奈川県	321.37	501.69	410.47	0.65
新潟県	387.79	523.15	457.69	0.64
富山県	384.23	531.03	460.32	0.74
石川県	388.27	534.98	463.98	0.72
福井県	328.18	434.89	383.21	0.73
山梨県	226.83	313.25	270.87	0.75
長野県	314.80	446.39	382.23	0.72
岐阜県	264.03	389.70	328.61	0.71
静岡県	334.46	470.47	403.43	0.68
愛知県	265.05	381.58	323.36	0.71
三重県	368.22	488.83	430.31	0.69
滋賀県	370.19	465.99	418.69	0.75
京都府	417.74	525.20	473.58	0.79
大阪府	354.93	496.88	427.70	0.80
兵庫県	354.89	486.92	423.49	0.71
奈良県	367.54	476.56	424.48	0.73
和歌山県	400.00	513.95	460.04	0.77
鳥取県	375.77	505.02	443.14	0.78
島根県	418.01	581.77	502.91	0.74
岡山県	455.56	586.81	523.60	0.72
広島県	362.45	456.72	411.19	0.78
山口県	377.55	510.49	447.69	0.79
徳島県	470.18	594.43	535.49	0.74
香川県	374.08	490.75	434.28	0.79
愛媛県	390.44	497.58	447.38	0.76
高知県	436.91	575.47	510.12	0.78
福岡県	370.34	469.61	422.43	0.76
佐賀県	368.04	478.96	426.54	0.79
長崎県	429.52	591.63	515.86	0.77
熊本県	420.30	524.36	475.24	0.73
大分県	356.70	480.00	422.23	0.80
宮崎県	387.27	510.37	452.36	0.74
鹿児島県	426.98	537.46	485.67	0.76
沖縄県	284.65	420.70	353.85	0.79
全国	342.48	481.49	413.58	0.68

表4 2002年度受給者 標準化受給者数比：都道府県・性別

都道府県	男	女
北海道	1.33 **	1.35 **
青森県	0.92 **	0.87 **
岩手県	1.01	1.01
宮城県	1.06 **	1.03 *
秋田県	0.97	0.95 **
山形県	0.89 **	0.87 **
福島県	1.09 **	1.00
茨城県	0.77 **	0.85 **
栃木県	0.98	1.00
群馬県	1.03	0.98
埼玉県	0.80 **	0.90 **
千葉県	0.89 **	0.97 **
東京都	0.85 **	0.93 **
神奈川県	0.96 **	1.07 **
新潟県	1.08 **	1.04 **
富山県	1.07 **	1.05 **
石川県	1.13 **	1.10 **
福井県	0.94 *	0.88 **
山梨県	0.65 **	0.65 **
長野県	0.88 **	0.90 **
岐阜県	0.76 **	0.81 **
静岡県	0.96 **	0.97 **
愛知県	0.80 **	0.82 **
三重県	1.05 **	1.00
滋賀県	1.12 **	1.01
京都府	1.21 **	1.09 **
大阪府	1.05 **	1.04 **
兵庫県	1.03 **	1.01
奈良県	1.07 **	0.99
和歌山県	1.11 **	1.02
鳥取県	1.06 *	1.01
島根県	1.13 **	1.12 **
岡山県	1.30 **	1.19 **
広島県	1.05 **	0.94 **
山口県	1.04	0.99
徳島県	1.30 **	1.18 **
香川県	1.05 *	0.99
愛媛県	1.09 **	0.98
高知県	1.19 **	1.11 **
福岡県	1.10 **	0.98 *
佐賀県	1.08 **	0.98
長崎県	1.23 **	1.20 **
熊本県	1.20 **	1.06 **
大分県	0.99	0.95 **
宮崎県	1.10 **	1.03
鹿児島県	1.20 **	1.08 **
沖縄県	0.93 **	0.97

\*p&lt;0.05, \*\*p&lt;0.01

表5 2002年度受給者数、受給者数性比、1997年度受給者数、  
受給者数比(2002年度/1997年度):性・疾患別

	男	女	総数	性比	1997年度	受給者数比
				男/女	受給者数	2002/1997
1 ベーチェット病	7,436 ( 3.5 )	10,022 ( 3.2 )	17,458 ( 3.3 )	0.74	16,287	1.07
2 多発性硬化症	3,143 ( 1.5 )	6,964 ( 2.2 )	10,107 ( 1.9 )	0.45	6,959	1.45
3 重症筋無力症	4,484 ( 2.1 )	9,225 ( 2.9 )	13,709 ( 2.6 )	0.49	11,218	1.22
4 全身性エリテマトーデス	5,220 ( 2.4 )	47,123 ( 15.0 )	52,343 ( 9.9 )	0.11	45,109	1.16
5 スモン	491 ( 0.2 )	1,606 ( 0.5 )	2,097 ( 0.4 )	0.31	2,028	1.03
6 再生不良性貧血	4,282 ( 2.0 )	6,187 ( 2.0 )	10,469 ( 2.0 )	0.69	9,508	1.10
7 サルコイドーシス	6,471 ( 3.0 )	14,889 ( 4.7 )	21,360 ( 4.1 )	0.43	16,039	1.33
8 筋萎縮性側索硬化症	3,876 ( 1.8 )	2,656 ( 0.8 )	6,532 ( 1.2 )	1.46	4,784	1.37
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	5,797 ( 2.7 )	25,498 ( 8.1 )	31,295 ( 5.9 )	0.23	24,558	1.27
10 特発性血小板減少性紫斑病	9,445 ( 4.4 )	21,884 ( 7.0 )	31,329 ( 5.9 )	0.43	28,804	1.09
11 結節性動脈周囲炎	1,609 ( 0.8 )	2,143 ( 0.7 )	3,752 ( 0.7 )	0.75	2,522	1.49
12 潰瘍性大腸炎	39,804 ( 18.7 )	37,111 ( 11.8 )	76,915 ( 14.6 )	1.07	52,261	1.47
13 大動脈炎症候群	487 ( 0.2 )	4,872 ( 1.6 )	5,359 ( 1.0 )	0.10	4,990	1.07
14 ビュルガー病	8,485 ( 4.0 )	1,171 ( 0.4 )	9,656 ( 1.8 )	7.25	10,363	0.93
15 天疱瘡	1,385 ( 0.6 )	2,161 ( 0.7 )	3,546 ( 0.7 )	0.64	2,842	1.25
16 脊髄小脳変性症	11,651 ( 5.5 )	11,761 ( 3.7 )	23,412 ( 4.4 )	0.99	16,145	1.45
17 クローン病	15,114 ( 7.1 )	6,888 ( 2.2 )	22,002 ( 4.2 )	2.19	15,576	1.41
18 劇症肝炎	201 ( 0.1 )	160 ( 0.1 )	361 ( 0.1 )	1.26	842	0.43
19 悪性関節リウマチ	1,381 ( 0.6 )	3,927 ( 1.3 )	5,308 ( 1.0 )	0.35	5,326	1.00
20 パーキンソン病	26,215 ( 12.3 )	39,420 ( 12.6 )	65,635 ( 12.5 )	0.67	47,231	1.39
21 アミロイドーシス	409 ( 0.2 )	550 ( 0.2 )	959 ( 0.2 )	0.74	769	1.25
22 後縦靭帯骨化症	14,608 ( 6.9 )	7,541 ( 2.4 )	22,149 ( 4.2 )	1.94	16,465	1.35
23 ハンチントン舞蹈病	331 ( 0.2 )	353 ( 0.1 )	684 ( 0.1 )	0.94	507	1.35
24 ウィリス動脈輪閉塞症	3,332 ( 1.6 )	6,275 ( 2.0 )	9,607 ( 1.8 )	0.53	6,723	1.43
25 ウェゲナー肉芽腫症	481 ( 0.2 )	561 ( 0.2 )	1,042 ( 0.2 )	0.86	720	1.45
26 特発性拡張型心筋症	10,591 ( 5.0 )	3,804 ( 1.2 )	14,395 ( 2.7 )	2.78	9,447	1.52
27 シャイ・ドレーガー症候群	547 ( 0.3 )	243 ( 0.1 )	790 ( 0.1 )	2.25	584	1.35
28 表皮水疱症	155 ( 0.1 )	183 ( 0.1 )	338 ( 0.1 )	0.85	313	1.08
29 膿疱性乾癬	675 ( 0.3 )	659 ( 0.2 )	1,334 ( 0.3 )	1.02	995	1.34
30 広範脊柱管狭窄症	1,429 ( 0.7 )	678 ( 0.2 )	2,107 ( 0.4 )	2.11	1,176	1.79
31 原発性胆汁性肝硬変	1,402 ( 0.7 )	10,496 ( 3.3 )	11,898 ( 2.3 )	0.13	8,320	1.43
32 重症急性膵炎	836 ( 0.4 )	387 ( 0.1 )	1,223 ( 0.2 )	2.16	1,334	0.92
33 特発性大腿骨頭壊死症	6,891 ( 3.2 )	4,136 ( 1.3 )	11,027 ( 2.1 )	1.67	6,555	1.68
34 混合性結合組織病	563 ( 0.3 )	6,019 ( 1.9 )	6,582 ( 1.2 )	0.09	4,007	1.64
35 原発性免疫不全症候群	786 ( 0.4 )	395 ( 0.1 )	1,181 ( 0.2 )	1.99	1,157	1.02
36 特発性間質性肺炎	2,139 ( 1.0 )	1,330 ( 0.4 )	3,469 ( 0.7 )	1.61	2,360	1.47
37 網膜色素変性症	9,366 ( 4.4 )	12,361 ( 3.9 )	21,727 ( 4.1 )	0.76	14,636	1.48
38 プリオオン病	111 ( 0.1 )	208 ( 0.1 )	319 ( 0.1 )	0.53	163	1.96
39 原発性肺高血圧症	184 ( 0.1 )	449 ( 0.1 )	633 ( 0.1 )	0.41	96	6.59
40 神経線維腫症	811 ( 0.4 )	997 ( 0.3 )	1,808 ( 0.3 )	0.81		
41 亜急性硬化性全脳炎	62 ( 0.0 )	49 ( 0.0 )	111 ( 0.0 )	1.27		
42 バット・キアリ症候群	96 ( 0.0 )	92 ( 0.0 )	188 ( 0.0 )	1.04		
43 特発性慢性肺血拴塞栓症	133 ( 0.1 )	312 ( 0.1 )	445 ( 0.1 )	0.43		
44 ライソゾーム病(ファブリー病含む)	168 ( 0.1 )	89 ( 0.0 )	257 ( 0.0 )	1.89		
45 副腎白質ジストロフィー	115 ( 0.1 )	14 ( 0.0 )	129 ( 0.0 )	8.21		
合計	213,198 ( 100 )	313,849 ( 100 )	527,047 ( 100 )	0.68	399,719	1.32

( )の数値は合計に占める割合(%)を示す。1997年度受給者数は1997年度受給者全国調査から得た。



表6-1 2002年度疾患別受給者数:年齢階級・性別 (総数)

疾患名	0-9歳	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	合計
1 ベーチェット病	6	157	970	2,265	3,217	4,796	4,048	1,999	17,458
2 多発性硬化症	75	300	1,285	2,349	2,022	2,162	1,297	617	10,107
3 重症筋無力症	227	448	919	1,522	1,906	2,950	2,806	2,931	13,709
4 全身性エリテマトーデス	45	1,507	6,579	10,138	10,515	12,393	7,572	3,594	52,343
5 スモン	2	2	13	9	18	146	479	1,428	2,097
6 再生不良性貧血	238	774	1,117	1,100	1,045	1,522	2,062	2,611	10,469
7 サルコイドーシス	6	68	1,509	3,245	2,483	4,231	5,667	4,151	21,360
8 筋萎縮性側索硬化症	3	7	35	136	459	1,415	2,243	2,234	6,532
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	105	361	796	1,689	3,474	8,594	9,943	6,333	31,295
10 特発性血小板減少性紫斑病	2,078	2,022	2,472	3,344	3,528	5,765	6,292	5,828	31,329
11 結節性動脈周囲炎	6	39	146	239	328	743	1,018	1,233	3,752
12 潰瘍性大腸炎	90	2,642	12,901	18,418	14,698	12,941	9,103	6,122	76,915
13 大動脈炎症候群	6	85	445	740	848	1,428	1,171	636	5,359
14 ビュルガー病	0	8	169	611	1,266	2,932	2,791	1,879	9,656
15 天疱瘡	0	16	58	202	429	901	932	1,008	3,546
16 脊髄小脳変性症	25	157	480	970	1,902	4,955	7,676	7,247	23,412
17 クローン病	26	975	6,445	7,410	3,598	1,830	1,083	635	22,002
18 劇症肝炎	31	22	29	59	51	72	58	39	361
19 悪性関節リウマチ	0	10	80	163	386	1,261	2,046	1,362	5,308
20 パーキンソン病	3	7	36	195	1,016	5,313	18,139	40,926	65,635
21 アミロイドーシス	0	4	6	63	93	210	335	248	959
22 後縦靭帯骨化症	1	4	18	170	1,136	4,586	7,789	8,445	22,149
23 ハンチントン舞踏病	0	4	11	50	124	177	186	132	684
24 ウィリス動脈輪閉塞症	512	1,649	1,500	1,395	1,289	1,741	1,149	372	9,607
25 ウェゲナー肉芽腫症	1	16	67	85	153	264	268	188	1,042
26 特発性拡張型心筋症	63	118	315	906	1,855	3,599	4,436	3,103	14,395
27 シャイ・ドレーガー症候群	0	0	6	3	20	162	273	326	790
28 表皮水疱症	69	72	55	52	32	34	11	13	338
29 膿疱性乾癬	7	41	116	193	247	257	282	191	1,334
30 広範脊柱管狭窄症	2	2	9	35	111	354	706	888	2,107
31 原発性胆汁性肝硬変	9	11	69	266	1,156	3,434	4,043	2,910	11,898
32 重症急性膵炎	6	11	47	155	200	287	273	244	1,223
33 特発性大腿骨頭壊死症	3	44	577	1,647	2,249	2,805	2,262	1,440	11,027
34 混合性結合組織病	2	134	679	1,163	1,238	1,611	1,246	509	6,582
35 原発性免疫不全症候群	210	354	313	150	65	54	19	16	1,181
36 特発性間質性肺炎	15	7	17	26	101	499	1,273	1,531	3,469
37 網膜色素変性症	20	248	638	1,265	2,407	5,186	6,487	5,476	21,727
38 プリオン病	0	1	2	7	10	96	90	113	319
39 原発性肺高血圧症	24	67	96	123	99	82	88	54	633
40 神経線維腫症	136	204	349	347	240	280	174	78	1,808
41 亜急性硬化性全脳炎	5	41	40	14	2	3	2	4	111
42 バット・キアリ症候群	0	4	13	28	27	45	41	30	188
43 特発性慢性肺血栓栓症	0	3	13	14	43	116	149	107	445
44 ライソゾーム病(ファブリー病含む)	3	19	69	63	44	29	23	7	257
45 副腎白質ジストロフィー	4	11	20	39	20	23	7	5	129
合計	4,064	12,676	41,529	63,063	66,150	102,284	118,038	119,243	527,047

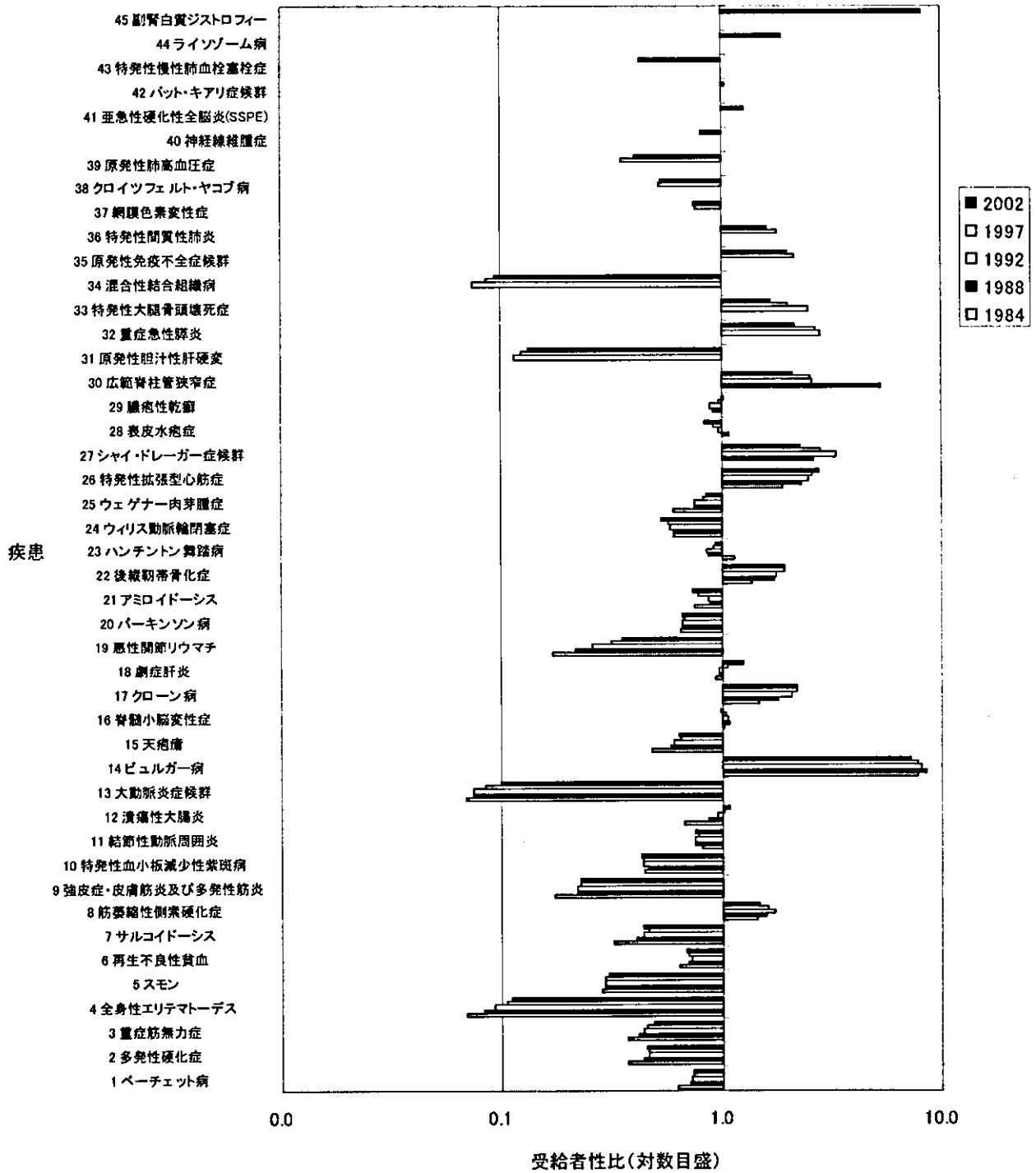
表6-2 2002年度疾患別受給者数:年齢階級・性別(男)

疾患名	0-9歳	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	合計
1 ベーチェット病	5	60	434	1,060	1,507	2,153	1,587	630	7,436
2 多発性硬化症	36	117	412	730	647	676	366	159	3,143
3 重症筋無力症	82	161	248	431	628	975	1,039	920	4,484
4 全身性エリテマトーデス	11	247	781	946	827	947	786	675	5,220
5 スモン	0	1	3	4	10	42	128	303	491
6 再生不良性貧血	143	407	580	470	411	585	782	904	4,282
7 サルコイドーシス	4	32	938	1,724	940	1,023	1,101	709	6,471
8 筋萎縮性側索硬化症	0	2	21	79	269	878	1,410	1,217	3,876
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	45	126	204	360	632	1,399	1,767	1,264	5,797
10 特発性血小板減少性紫斑病	1,186	908	561	606	846	1,431	1,880	2,027	9,445
11 結節性動脈周囲炎	3	18	64	89	135	325	441	534	1,609
12 潰瘍性大腸炎	51	1,485	7,087	9,609	7,696	6,442	4,463	2,971	39,804
13 大動脈炎症候群	1	14	50	62	70	119	101	70	487
14 ビュルガー病	0	8	147	548	1,140	2,548	2,416	1,678	8,485
15 天疱瘡	0	3	29	89	160	326	374	404	1,385
16 脊髄小脳変性症	13	80	238	506	971	2,563	3,907	3,373	11,651
17 クロウン病	14	649	4,536	5,491	2,566	1,061	536	261	15,114
18 劇症肝炎	20	11	17	34	28	39	31	21	201
19 悪性関節リウマチ	0	0	22	30	100	317	535	377	1,381
20 パーキンソン病	1	2	14	92	525	2,469	8,096	15,016	26,215
21 アミロイドーシス	0	3	1	30	40	83	153	99	409
22 後縦靭帯骨化症	1	4	12	117	748	2,895	5,186	5,645	14,608
23 ハンチントン舞蹈病	0	1	4	25	68	90	83	60	331
24 ウィリス動脈輪閉塞症	217	674	513	435	446	571	373	103	3,332
25 ウェゲナー肉芽腫症	0	3	28	33	84	142	118	73	481
26 特発性拡張型心筋症	28	69	245	751	1,506	2,785	3,223	1,984	10,591
27 シャイ・ドレーガー症候群	0	0	4	1	14	110	189	229	547
28 表皮水疱症	30	39	27	22	13	13	4	7	155
29 膿疱性乾癬	2	19	51	83	126	154	148	92	675
30 広範脊柱管狭窄症	2	2	6	26	83	252	496	562	1,429
31 原発性胆汁性肝硬変	7	2	18	23	122	333	460	437	1,402
32 重症急性膵炎	3	7	28	131	163	208	182	114	836
33 特発性大脳骨頭壊死症	2	19	306	1,052	1,663	2,001	1,311	537	6,891
34 混合性結合組織病	0	18	48	94	97	133	116	57	563
35 原発性免疫不全症候群	154	259	222	93	23	15	10	10	786
36 特発性間質性肺炎	9	4	9	15	44	289	807	962	2,139
37 網膜色素変性症	9	147	318	601	1,165	2,275	2,710	2,141	9,366
38 プリオン病	0	0	2	4	5	13	49	38	111
39 原発性肺高血圧症	15	35	25	30	26	19	19	15	184
40 神経線維腫症	73	91	160	141	107	122	87	30	811
41 亜急性硬化性全脳炎	1	24	22	8	1	1	1	4	62
42 バット・キアリ症候群	0	2	5	11	15	22	22	19	96
43 特発性慢性肺血栓塞栓症	0	2	7	12	15	30	36	31	133
44 ラインゾーム病(ファブリー病含む)	1	14	43	49	28	19	8	6	168
45 副腎白質シストロフィー	4	10	20	36	19	18	5	3	115
合計	2,173	5,779	18,510	26,783	26,729	38,911	47,542	46,771	213,198

表6-3 2002年度疾患別受給者数:年齢階級・性別(女)

疾患名	0-9歳	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	合計
1 ベーチェット病	1	97	536	1,205	1,710	2,643	2,461	1,369	10,022
2 多発性硬化症	39	183	873	1,619	1,375	1,486	931	458	6,964
3 重症筋無力症	145	287	671	1,091	1,278	1,975	1,767	2,011	9,225
4 全身性エリテマトーデス	34	1,260	5,798	9,192	9,688	11,446	6,786	2,919	47,123
5 スモン	2	1	10	5	8	104	351	1,125	1,606
6 再生不良性貧血	95	367	537	630	634	937	1,280	1,707	6,187
7 サルコイドーシス	2	36	571	1,521	1,543	3,208	4,566	3,442	14,889
8 筋萎縮性側索硬化症	3	5	14	57	190	537	833	1,017	2,656
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	60	235	592	1,329	2,842	7,195	8,176	5,069	25,498
10 特発性血小板減少性紫斑病	892	1,114	1,911	2,738	2,682	4,334	4,412	3,801	21,884
11 結節性動脈周囲炎	3	21	82	150	193	418	577	699	2,143
12 潰瘍性大腸炎	39	1,157	5,814	8,809	7,002	6,499	4,640	3,151	37,111
13 大動脈炎症候群	5	71	395	678	778	1,309	1,070	566	4,872
14 ピュルガー病	0	0	22	63	126	384	375	201	1,171
15 天疱瘡	0	13	29	113	269	575	558	604	2,161
16 脊髄小脳変性症	12	77	242	464	931	2,392	3,769	3,874	11,761
17 クロウン病	12	326	1,909	1,919	1,032	769	547	374	6,888
18 劇症肝炎	11	11	12	25	23	33	27	18	160
19 悪性関節リウマチ	0	10	58	133	286	944	1,511	985	3,927
20 パーキンソン病	2	5	22	103	491	2,844	10,043	25,910	39,420
21 アミロイドーシス	0	1	5	33	53	127	182	149	550
22 後縦靭帯骨化症	0	0	6	53	388	1,691	2,603	2,800	7,541
23 ハンチントン舞踏病	0	3	7	25	56	87	103	72	353
24 ウィリス動脈輪閉塞症	295	975	987	960	843	1,170	776	269	6,275
25 ウェゲナー肉芽腫症	1	13	39	52	69	122	150	115	561
26 特発性拡張型心筋症	35	49	70	155	349	814	1,213	1,119	3,804
27 シャイ・ドレーガー症候群	0	0	2	2	6	52	84	97	243
28 表皮水疱症	39	33	28	30	19	21	7	6	183
29 膿疱性乾癬	5	22	65	110	121	103	134	99	659
30 広範脊柱管狭窄症	0	0	3	9	28	102	210	326	678
31 原発性胆汁性肝硬変	2	9	51	243	1,034	3,101	3,583	2,473	10,496
32 重症急性性肺炎	3	4	19	24	37	79	91	130	387
33 特発性大腿骨頭壊死症	1	25	271	595	586	804	951	903	4,136
34 混合性結合組織病	2	116	631	1,069	1,141	1,478	1,130	452	6,019
35 原発性免疫不全症候群	56	95	91	57	42	39	9	6	395
36 特発性間質性肺炎	6	3	8	11	57	210	466	569	1,330
37 網膜色素変性症	11	101	320	664	1,242	2,911	3,777	3,335	12,361
38 クロイツフェルト・ヤコブ病	0	1	0	3	5	83	41	75	208
39 原発性肺高血圧症	9	32	71	93	73	63	69	39	449
40 神経線維腫症	63	113	189	206	133	158	87	48	997
41 亜急性硬化性全脳炎	4	17	18	6	1	2	1	0	49
42 パット・キアリ症候群	0	2	8	17	12	23	19	11	92
43 特発性慢性肺血栓塞栓症	0	1	6	2	28	86	113	76	312
44 ラインゾーム病(ファブリー病含む)	2	5	26	14	16	10	15	1	89
45 副腎白質ジストロフィー	0	1	0	3	1	5	2	2	14
合計	1,891	6,897	23,019	36,280	39,421	63,373	70,496	72,472	313,849

図2 疾患別の受給者数性比(男/女)の推移(1984、1988、1992、1997、2002年度)



1984年、1988年、1992年、1997年度の受給者数は、受給者全国調査から得た。

図3 2002年度受給者数  
40 神経線維腫症

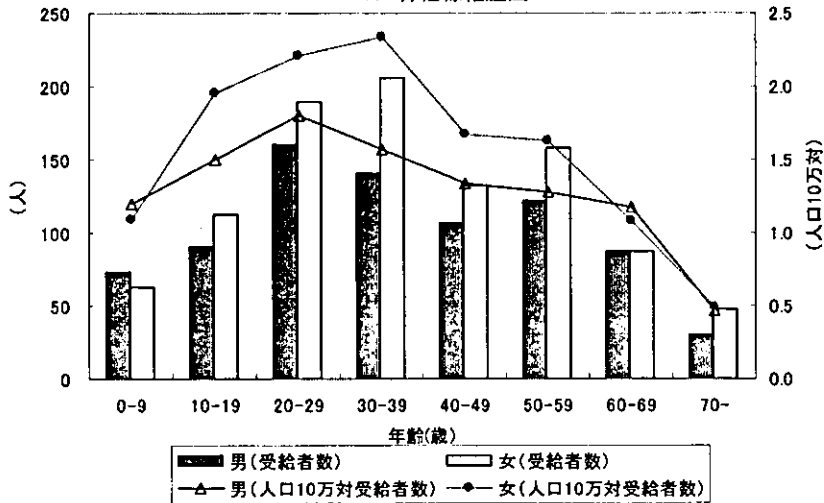


図4 2002年度受給者数  
41 亜急性硬化性全脳炎

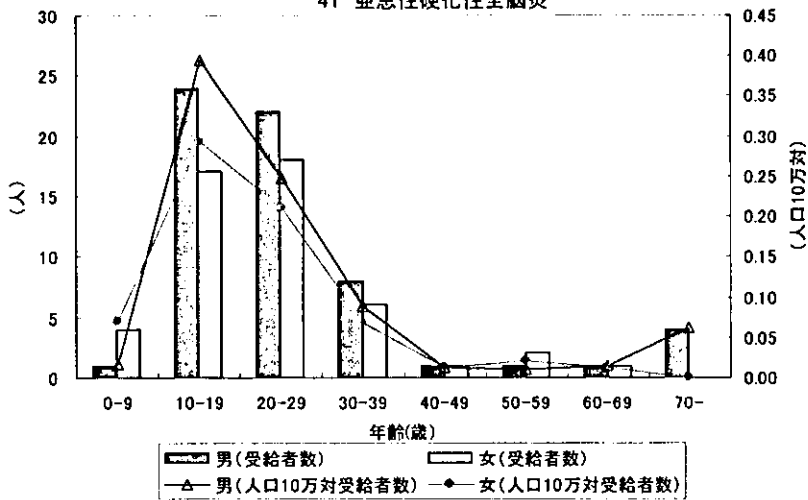


図5 2002年度受給者数  
42 バット・ケアリ症候群

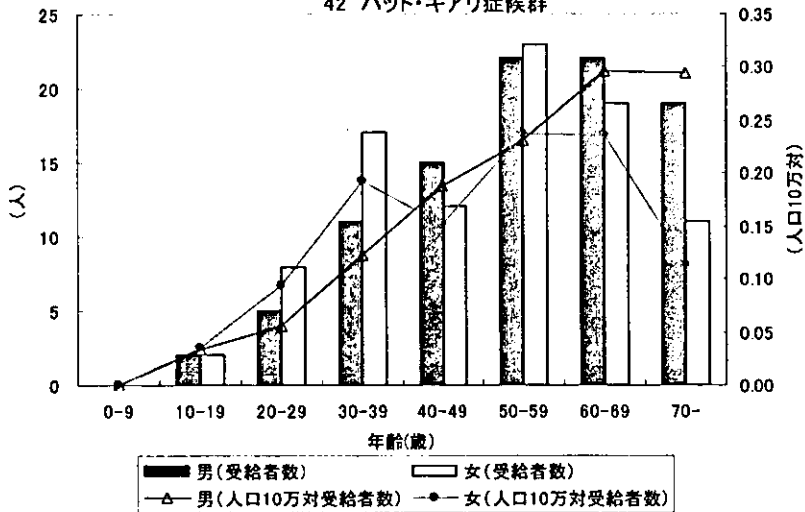


図6 2002年度受給者数  
43 特発性慢性肺血栓栓症

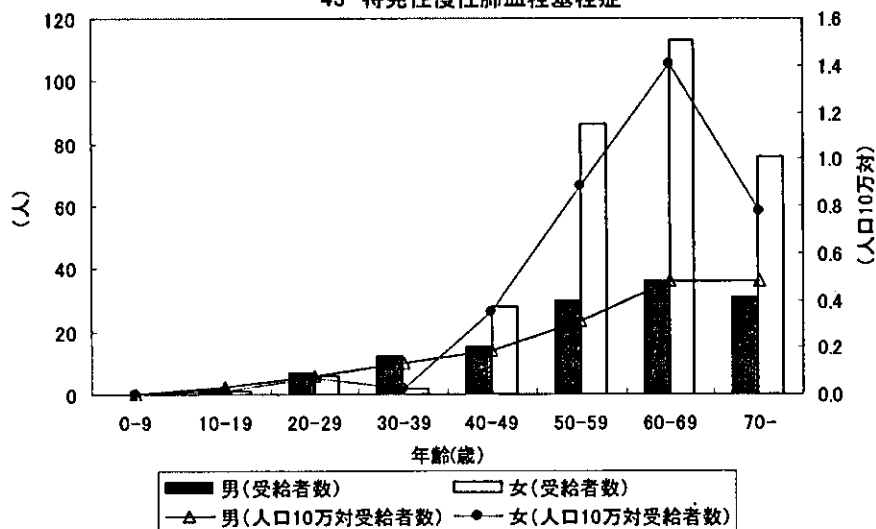


図7 2002年度受給者数  
44 ライソゾーム病(ファブリー「Fabry」病含む)

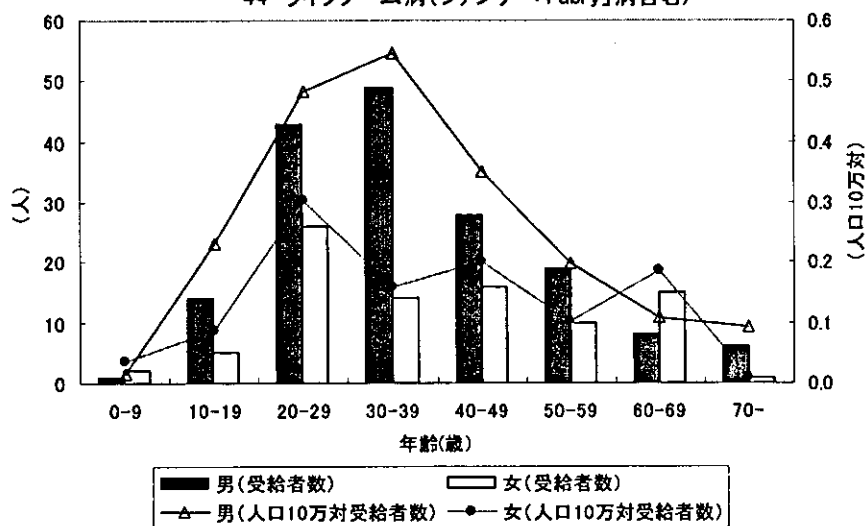
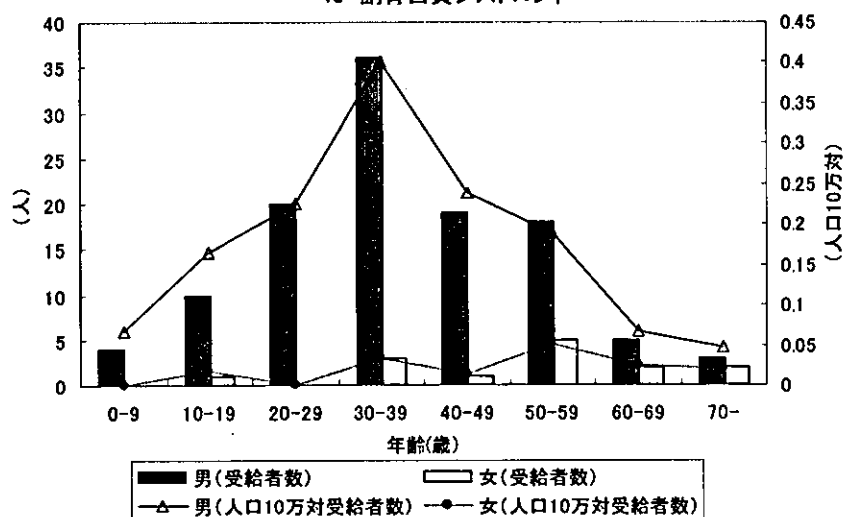


図8 2002年度受給者数  
45 副腎白質ジストロフィー



## 2002年度特定疾患医療受給者の地域格差（保健所別）の検討

仁科基子、柴崎智美、太田晶子、石島英樹、泉田美知子、永井正規  
（埼玉医科大学・公衆衛生学）

### 研究要旨

過去4回の特定疾患治療研究医療受給者（1984年度、1988年度、1992年度、1997年度）全国悉皆調査結果に見られる都道府県間の格差は必ずしもそのすべてが有病率の格差を示すものではなく、認定基準や関連行政施策の違いが反映されていると考えられている。今回は、地域保健・老人保健事業報告の2002年度保健所別、特定疾患医療受給者数のデータを用い、「都道府県内の認定基準等が同じと考えると都道府県間の格差より都道府県内（保健所間）の格差は小さいのではないか。」という仮説を検討し、さらに県内での保健所別格差を明らかにすることを目的として全疾患および受給者数の多い5疾患、12潰瘍性大腸炎、20パーキンソン病、4全身性エリテマトーデス、10特発性血小板減少性紫斑病、9強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎について検討した。その結果、人口10万対受給者数の県内保健所間の（人口で調整した）ばらつきは、都道府県間のそれより小さく、都道府県内（保健所間）の格差は都道府県間の格差より小さいと考えられた。

今後、特に県内格差の大きい県に注目して、格差の原因を追究すること、経時的に保健所間の格差を観察することに意義があると考えられた。

### はじめに

過去4回（1984,1988,1992,1997年度）の特定疾患治療研究医療受給者全国悉皆調査により、都道府県別の人口10万対受給者数及び、標準化受給者数比が報告され、都道府県間の格差は必ずしもそのすべてが有病率の格差を示すものではなく、認定基準や関連行政施策の違いが反映されていると考えられている。今回は、2002年度保健所別、特定疾患医療受給者数のデータを用い、「都道府県内の認定基準等が同じと考えると都道府県間の格差より都道府県内（保健所間）の格差は小さいのではないか。」という仮説を検討し、さらに県内での保健所別格差について明らかにする。

### 方法

#### <資料>

資料として厚生労働省統計表データベー

スシステムより「地域保健・老人保健事業報告 閲覧(地域保健編) 保健所表 2002年度特定疾患医療受給者証所持者数、保健所、性・対象疾病別」データをダウンロードして用いた。

人口あたりの受給者数の分母に用いた人口には2000年国勢調査市町村人口より保健所管内人口を求めて利用した。

#### <解析方法>

##### 1. 保健所別格差の検討

全疾患、4全身性エリテマトーデス、9強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎、10特発性血小板減少性紫斑病、12潰瘍性大腸炎、20パーキンソン病について保健所別人口10万対受給者数を求めた。

保健所の人口規模と人口10万対受給者数の関係は散布図とPearsonの相関係数によって観察した。

##### 2. 都道府県内（保健所間）の格差と都道府県間の格差の比較

県内の各保健所の人口10万対受給者数の平均、標準偏差、変動係数とともにばらつきの尺度として、保健所管内人口が小さくなると系統的に受給者数のばらつきが大きくなることの影響を除くため、保健所管内人口で調整したばらつきの指標を次式で求めた。

人口の大きさに調整した県内のばらつきの指標

$$= \text{標準偏差} \times \sqrt{\frac{\text{保健所管内人口}}{\text{平均}}}$$

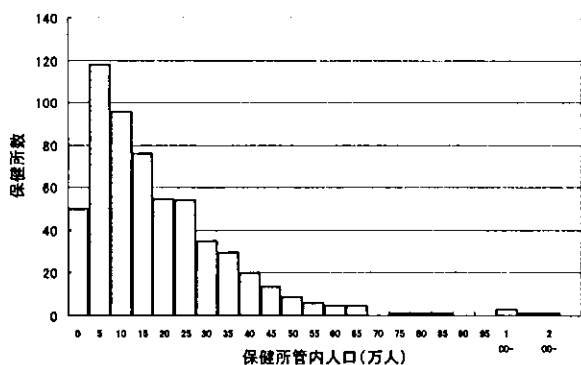
都道府県間も同様に47都道府県の人口10万対受給者数の平均、標準偏差、変動係数、都道府県人口で調整したばらつきの指標を求めた。

都道府県内（保健所間）と都道府県間のばらつきの比較には都道府県の人口で調整したばらつきの指標を1として各都道府県内のその値と比較した。

## 結果

対象となった、全国の保健所数は582カ所。人口規模が5万から10万未満の保健所が最も多く、5万以上20万未満の人口規模の保健所が全国の半数を占める。（図I）

図I 保健所管内の人口規模の分布 (n:582)



全疾患および解析対象5疾患の保健所別人口10万対受給者数は図Ⅷ、図Ⅸに示すとおりである。

### 1. 全疾患

全疾患の保健所別人口10万対受給者数の平均は429で最小は231（大月保健所（山梨県））から最大767（中央西保健所（高知県））だった。保健所の人口規模と人口

10万対受給者数の関係をみると、人口規模が小さい方が受給者のばらつきが大きく、また、人口規模が大きくなると、やや受給者数が少なくなる傾向があった。

（図Ⅱ-1、図Ⅱ-2）

人口で調整した県内のばらつきが小さいのは青森県、山形県、福井県、奈良県だった。県内のばらつきが大きいのは徳島県、高知県、静岡県、三重県、北海道、栃木県だったが、都道府県間の人口で調整したばらつきに対する比はいずれの県も0.4以下で県内のばらつきの方が県間のばらつきよりも小さかった。（表1、図Ⅱ-3、図Ⅱ-4）

### 2. 12潰瘍性大腸炎

潰瘍性大腸炎の保健所別人口10万対受給者数の平均は57.9で最小は14（宮古保健所（沖縄県））から最大103（泉保健所（仙台市））だった。保健所の人口規模と人口10万対受給者数の関係をみると、人口規模が大きくなると、受給者数が多くなる傾向があった。（図Ⅲ-1、図Ⅲ-2）

人口で調整した県内のばらつきが小さいのは青森県、岩手県、福島県、奈良県だった。県内のばらつきが大きいのは宮城県、石川県、大阪府、熊本県、沖縄県だったが、都道府県間の人口で調整したばらつきに対する比はいずれの県も0.6以下で県内のばらつきの方が県間のばらつきより小さかった。（表2、図Ⅲ-4）

### 3. 20パーキンソン病

パーキンソン病の保健所別人口10万対受給者数の平均は58 最小は12（大月保健所（山梨県））、最大は161（岩内保健所（北海道））で分布の幅、ばらつきが大きかった。保健所の人口規模と人口10万対受給者数の関係をみると、保健所人口規模が大きくなると受給者数が少なくなる傾向があった。

都道府県別人口10万対受給者数は山梨県、愛知県が30以下で低く、島根、鳥取、北海道、高知県が80以上で高く、都道府県間のばらつきも大きかった。（図Ⅳ-1、図Ⅳ-2）

人口で調整した県内のばらつきが小さいのは富山県、佐賀県、山形県だった。県内のばらつきが大きいのは鳥取県、広島県、岩手県だったが、都道府県間の人口で調整したばらつきに対する比はいずれの県も



0.6 以下で県内のばらつきの方が県間のばらつきより小さかった。(表 3、図 IV - 3、図 IV - 4)

#### 4. 4 全身性エリテマトーデス

全身性エリテマトーデスの保健所別人口 10 万対受給者数の平均は 41 最小は 0 (本山保健所 (高知県))、最大は 88 (日和佐保健所 (徳島県)) だった。(図 V - 1、図 V - 2)

人口で調整した県内のばらつきが小さいのは青森県だった。県内のばらつきが大きいのは徳島県、沖縄県、佐賀県だったが、都道府県間の人口で調整したばらつきに対する比はいずれの県も 0.7 以下で県内のばらつきの方が県間のばらつきより小さかった。(表 4、図 V - 3、図 V - 4)

#### 5. 10 特発性血小板減少性紫斑病

特発性血小板減少性紫斑病の保健所別人口 10 万対受給者数の平均は 25 最小は 7 (室蘭保健所 (北海道))、最大は 76 (土佐清水保健所 (高知県)) だった。(図 VI - 1、図 VI - 2)

人口で調整した県内のばらつきが小さかったのは沖縄、山梨、青森県だった。県内のばらつきが大きかったのは高知、山口、島根県だったが、都道府県間の人口で調整したばらつきに対する比はいずれの県も 0.6 以下で県内のばらつきの方が県間のばらつきより小さかった。(表 5、図 VI - 3、図 VI - 4)

#### 6. 9 強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎

強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎の保健所別人口 10 万対受給者数の平均は 25、最小は 0 (屋久島保健所 (鹿児島県))、最大は 56 (関保健所 (岐阜県)) だった。

人口で調整した県内のばらつきが小さかったのは富山、岩手、宮城、福島県だった。県内のばらつきが大きかったのは岐阜、静岡、茨城県だったが、都道府県間の人口で調整したばらつきに対する比はいずれの県も 0.5 以下で県内のばらつきの方が県間のばらつきより小さかった。(表 6、図 VII - 3、図 VII - 4)

### 考察

全疾患、4 全身性エリテマトーデス、9 強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎、10 特

発性血小板減少性紫斑病、12 潰瘍性大腸炎、20 パーキンソン病の人口 10 万対受給者数の県内 (保健所間) の格差は都道府県間の格差より小さいと考えられた。

県内格差 (保健所間格差) を大きくする要因としては各保健所管内の有病率、人口の年齢構成、医療環境、保健所活動などの格差、および保健所からの受給者数の報告ミスなどが考えられる。

本研究では、地域保健事業報告のインターネット上に公表されているデータを利用したが、データの解析に際して、全疾患の人口あたりの受給者数または性比がはずれ値を示した保健所について前年度 (2001 年度) に報告されているデータと比較し、データの誤りではないかと考えられた 6 力所の保健所に対して問い合わせを行なった。その結果、各保健所の担当者からは速やかにデータの修正があった。問い合わせた保健所の担当者のほとんどは報告した保健所の受給者データがネット上に公開されているのを知らなかった。

人口規模の大きい保健所は規模の小さい保健所に比べ、高齢人口割合が少ない傾向にある。保健所人口規模と人口 10 万対受給者数の関係は、保健所人口の年齢構成の違いによる影響を受けていると考えられる。保健所間の比較には受給者の年齢分布を考慮して、年齢を調整した比較が必要と思われる。

今後、特に格差の大きい県に注目して、格差の原因を追究すること、経時的に保健所間の格差を観察することに意義があると考えられた。

### 文献

- 1) 瀧上博司, 永井正規, 仁科基子, 他編: 難病患者の実態調査 1997 年度特定疾患医療受給者全国調査の解析. 日本公衛誌, 2002;49:774-789.
- 2) 瀧上博司, 永井正規, 仁科基子, 他編: 難病患者の受療動向 1997 年度特定疾患医療受給者全国調査の解析. 日本衛生学雑誌, 2003. Vol58, No.3:357-368.
- 3) 太田晶子, 仁科基子, 柴崎智美, 他: 地域保健事業報告における特定疾患医療受給者情報の利用. 厚生学の指標. 2003;50:17-23

健康危険情報  
なし

トーデスと悪性関節リウマチの性比の特徴について、日本公衛誌，51(10)，479，  
2004

研究発表  
学会発表

1. 石島英樹，仁科基子，太田晶子，泉田美知子，柴崎智美，永井正規：全身性エリテマ

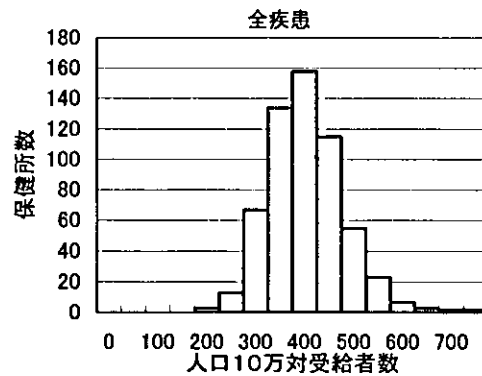
知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

特許取得	なし
実用新案登録	なし
その他	なし

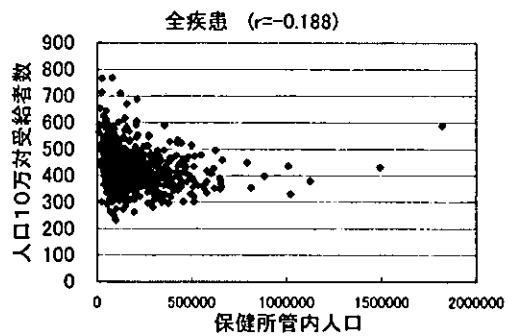
表1 2002年度人口10万対受給者数, 都道府県別  
全受給者

	n	平均	標準偏差	変動係数	人口の大きさを調整したばらつきの指標	
都道府県	47	426.8	57.5	13.5%	87227.5	1.00
保健所数						
01北海道	30	568.9	65.2	11.5%	24384.8	0.28
02青森	6	380.3	16.3	4.3%	7872.9	0.09
03岩手	10	447.9	42.3	9.4%	15058.8	0.17
04宮城	12	424.0	27.3	6.4%	11820.9	0.14
05秋田	9	423.7	42.9	10.1%	15100.8	0.17
06山形	4	380.6	16.4	4.3%	8757.6	0.10
07福島	8	431.4	47.6	11.0%	23514.4	0.27
08茨城	12	330.9	34.7	10.5%	16898.9	0.19
09栃木	6	408.6	43.3	10.6%	24681.0	0.28
10群馬	11	421.4	44.2	10.5%	18298.8	0.21
11埼玉	22	344.2	31.3	9.1%	16839.4	0.19
12千葉	16	385.7	23.5	6.1%	13583.0	0.16
13東京	36	375.4	35.7	9.5%	19742.1	0.23
14神奈川	38	418.0	43.1	10.3%	19782.9	0.23
15新潟	14	452.3	46.0	10.2%	18354.0	0.21
16富山	5	460.3	36.3	7.9%	16879.5	0.19
17石川	5	472.6	32.0	6.8%	15008.0	0.17
18福井	6	391.3	23.7	6.1%	8460.9	0.10
19山梨	8	272.0	31.9	11.7%	10239.9	0.12
20長野	11	386.8	41.5	10.7%	17886.5	0.21
21岐阜	8	329.3	33.8	10.3%	16933.8	0.19
22静岡	12	397.5	54.1	13.6%	28618.9	0.33
23愛知	32	327.5	20.3	6.2%	9135.0	0.10
24三重	9	434.3	58.5	13.5%	25506.0	0.29
25滋賀	7	425.5	51.0	12.0%	21777.0	0.25
26京都	23	485.1	46.5	9.6%	15066.0	0.17
27大阪	18	443.2	39.6	8.9%	25858.8	0.30
28兵庫	29	432.0	41.7	9.7%	15804.3	0.18
29奈良	6	427.3	18.4	4.3%	8464.0	0.10
30和歌山	8	456.9	55.2	12.1%	19264.8	0.22
31鳥取	4	459.4	44.4	9.7%	16206.0	0.19
32島根	7	504.5	55.9	11.1%	17440.8	0.20
33岡山	11	528.0	41.0	7.8%	15662.0	0.18
34広島	10	421.8	45.6	10.8%	22344.0	0.26
35山口	10	447.7	52.8	11.8%	19747.2	0.23
36徳島	6	577.8	101.1	17.5%	33464.1	0.38
37香川	5	444.7	26.1	5.9%	11196.9	0.13
38愛媛	9	455.3	24.0	5.3%	9360.0	0.11
39高知	10	549.6	109.2	19.9%	27518.4	0.32
40福岡	22	425.8	37.2	8.7%	16851.6	0.19
41佐賀	5	425.5	25.4	6.0%	10287.0	0.12
42長崎	10	514.1	66.9	13.0%	23950.2	0.27
43熊本	11	481.2	45.0	9.4%	17280.0	0.20
44大分	10	425.6	48.0	11.3%	15408.0	0.18
45宮崎	9	456.1	42.8	9.4%	14808.8	0.17
46鹿児島	16	488.4	73.7	15.1%	22552.2	0.26
47沖縄	6	355.1	38.2	10.8%	16464.2	0.19
全国	582	429.1	78.3	18.2%		

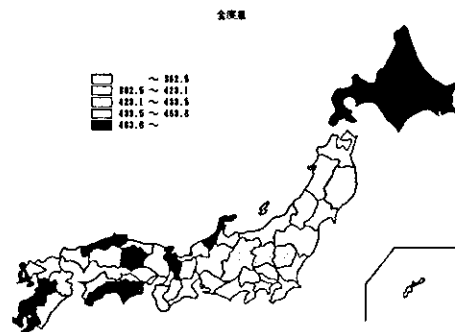
図II-1 保健所別人口10万対受給者数の分布



図II-2 保健所管内人口と人口10万対受給者数の関係



図II-3 都道府県別人口10万対受給者数



図II-4 人口で調整した県内のばらつきの指標

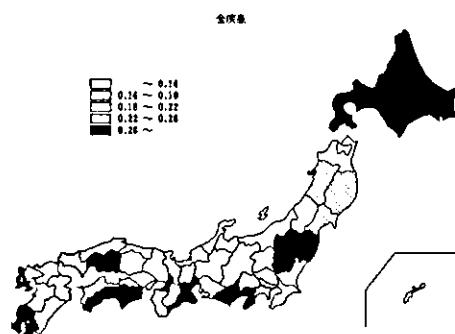
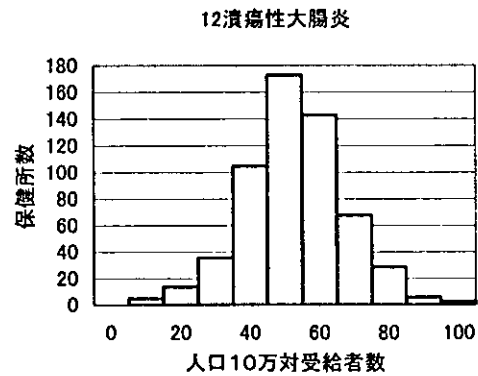


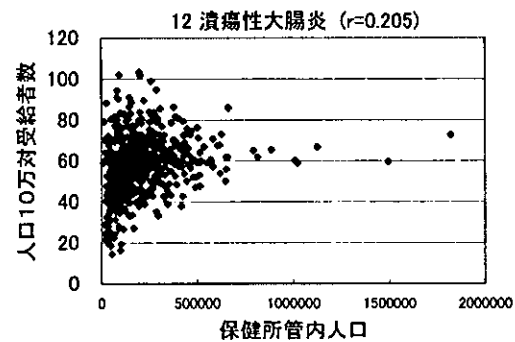
表2 2002年度人口10万対受給者数, 都道府県別  
12潰瘍性大腸炎

	n	平均	標準偏差	変動係数	人口の大きさを調整したばらつきの指標
都道府県	47	58.1	9.0	15.5%	13653.0
保健所数					
01北海道	30	51.7	13.3	25.7%	4974.2
02青森	6	40.5	5.0	12.3%	2415.0
03岩手	10	53.0	6.1	11.5%	2171.6
04宮城	12	66.6	16.2	24.3%	7014.6
05秋田	9	54.4	15.8	29.0%	5561.6
06山形	4	46.0	9.6	20.9%	5126.4
07福島	8	57.8	4.6	8.0%	2272.4
08茨城	12	48.1	7.1	14.8%	3457.7
09栃木	6	59.5	7.6	12.8%	4332.0
10群馬	11	54.3	11.0	20.3%	4554.0
11埼玉	22	56.8	9.3	16.4%	5003.4
12千葉	16	55.6	9.3	16.7%	5375.4
13東京	36	59.4	7.8	13.1%	4313.4
14神奈川	38	77.4	9.5	12.3%	4360.5
15新潟	14	65.9	11.9	18.1%	4748.1
16富山	5	53.6	8.2	15.3%	3813.0
17石川	5	46.7	14.7	31.5%	6894.3
18福井	6	48.3	8.3	17.2%	2963.1
19山梨	8	27.2	8.2	30.1%	2632.2
20長野	11	52.4	10.0	19.1%	4310.0
21岐阜	8	52.1	12.5	24.0%	6262.5
22静岡	12	60.3	9.1	15.1%	4813.9
23愛知	32	55.8	7.7	13.8%	3465.0
24三重	9	55.3	10.4	18.8%	4534.4
25滋賀	7	64.5	11.1	17.2%	4739.7
26京都	23	64.3	17.4	27.1%	5637.6
27大阪	18	69.7	10.8	15.5%	7052.4
28兵庫	29	54.6	10.5	19.2%	3979.5
29奈良	6	64.4	10.9	16.9%	5014.0
30和歌山	8	55.9	11.9	21.3%	4153.1
31鳥取	4	36.3	14.2	39.1%	5183.0
32島根	7	50.4	16.9	33.5%	5272.8
33岡山	11	62.4	11.1	17.8%	4240.2
34広島	10	58.4	10.2	17.5%	4998.0
35山口	10	62.7	7.4	11.8%	2767.6
36徳島	6	72.5	15.3	21.1%	5064.3
37香川	5	49.4	5.8	11.7%	2488.2
38愛媛	9	60.4	11.4	18.9%	4446.0
39高知	10	50.6	21.9	43.3%	5518.8
40福岡	22	63.5	9.7	15.3%	4394.1
41佐賀	5	55.9	13.6	24.3%	5508.0
42長崎	10	53.1	14.6	27.5%	5226.8
43熊本	11	65.3	17.0	26.0%	6528.0
44大分	10	52.2	10.2	19.5%	3274.2
45宮崎	9	57.5	7.4	12.9%	2560.4
46鹿児島	16	51.3	14.4	28.1%	4406.4
47沖縄	6	36.8	16.8	45.7%	7240.8
全国	582	57.9	14.1	24.4%	

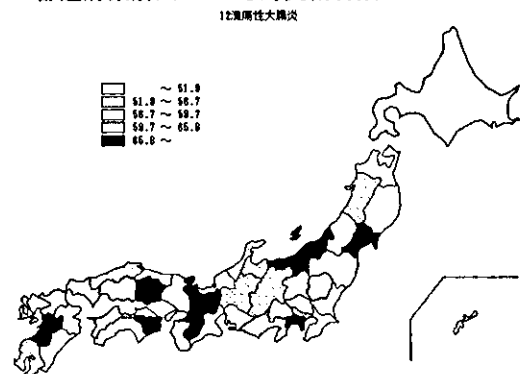
図Ⅲ-1 保健所別人口10万対受給者数の分布



図Ⅲ-2 保健所管内人口と人口10万対受給者数の関係



図Ⅲ-3 都道府県別人口10万対受給者数



図Ⅲ-4 人口で調整した県内のばらつきの指標

